

第2回「原子力フォーラム茨城」対話討論の総括

原子力発祥の地茨城からの提言

原子力発祥の地茨城の原子力再興を図るため、革新的技術に挑戦する若手人材と熟練技術者が活躍できる場の確保・拡大につながる新たな事業の推進を国に提言する。

○原子力発祥の地に「国際原子力大学校」を創設する

原子力発祥の地茨城には、経験豊かな専門家集団と原子力施設が存在している。その特徴を生かし、福島第一原発事故の教訓や原子力実践工学などを修得し、国内外で活躍できる、原子力界の中核リーダー育成に特化した専門組織を創設する。これは、学校・大学・研究所や立地地域における人材育成とは異なり、国のエネルギー安全保障の一翼を担う人材を育成する構想である。県内に誘致すれば、地域の振興および国の原子力発電の推進に貢献できる。

○国内外の要請に貢献してきた「材料試験炉」の後継炉を設置する

材料試験炉の後継炉として照射を主目的とした「先進的多目的炉」を設置し、国内外の研究者が共同利用してきた東北大学金属材料研究所附属量子エネルギー材料科学国際研究センター、原子力事業者、医療機関、および日本原子力研究開発機構を中核とした放射線利用、核医学（診断・医療）の拠点として大洗地区の活性化を図る。

本日の対話討論を踏まえ、以上のとおり提言する。

令和2年12月5日

一般社団法人原子力国民会議

茨城支部代表 田山 東湖